

# 宮崎県内経済情勢報告

令和6年8月



## 財務省九州財務局宮崎財務事務所

〒880-0805 宮崎市橘通東 3-1-22 TEL. 0985-22-7101 (担当. 財務課)

<https://lfb.mof.go.jp/kyusyu/miyazaki/index.html>



この資料は当所ウェブサイトに掲載しています。  
九州財務局宮崎財務事務所  
公式ウェブサイト



九州財務局  
公式 X (旧 Twitter)



九州財務局  
公式 Facebook

## 1. 総論

### 【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	

（注）6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### （判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、食料品工業が横ばいの状況のなか、海外需要の減少などの影響がみられ、電子部品・デバイス工業などが弱い動きとなっており、弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

#### 【各項目の判断】

項目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	
生産活動	弱含んでいる	弱含んでいる	
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	
設備投資	5年度は減少見込み	6年度は増加見込み	
企業収益	5年度は増益見込み	6年度は減益見込み	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	

#### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動などの影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。コンビニエンスストア販売は、客足の伸長がみられ堅調となっている。ドラッグストア販売は、化粧品や食料品を中心に好調となっている。家電大型専門店販売は、低価格帯商品に需要が流れる動きがみられ弱含んでいる。ホームセンター販売は、弱含んでいる。乗用車新車登録・届出台数は、持ち直しの動きがみられていたが、足下では弱含んでいる。レジャー・観光施設の入場者数及び宿泊者数は、団体客に戻りがみられ回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 日常生活に不可欠な生鮮食料品を取り扱っているため、物価上昇による極端な客離れは生じていない。(百貨店・スーパー)
- ゴールデンウィーク期間は外出機会の増加に伴い、客数の伸長が見られた。6月は梅雨入りが遅かったことで晴天が多く、売上が伸びた。(コンビニエンスストア)
- 化粧品は好調であり、食料品は価格戦略が功を奏して好調だった。(ドラッグストア)
- 物価高騰の影響により、買い控えや低価格商品への需要のシフトが見られ、客数、客単価ともに低下している。(家電大型専門店)
- 値上げにより来店客数は減少傾向にあるが、セール時の客足の勢いは増しており、一定の需要はある。(ホームセンター)
- 一部メーカーの生産再開を受け、登録台数は徐々に改善してきたところではあるが、足下では新たに認証不正問題が発覚していることから引き続き登録台数への影響が懸念される。(自動車業界団体)
- 大型バスやマイクロバスでの来訪は堅調であり、客数の水準感としてはコロナ禍前の状況である。(レジャー・観光施設)
- 足下では個人のビジネス需要が引き続き堅調であるほか、学生のスポーツ合宿や企業の団体利用も好調である。(宿泊施設)

### ■ 生産活動 「弱含んでいる」

食料品工業が横ばいの状況のなか、海外需要の減少などの影響がみられ、電子部品・デバイス工業などが弱い動きとなっており、弱含んでいる。

- 病害の影響は依然として続いており、生産水準の回復には至っていない。(食料品工業)
- 外食需要については、コロナ禍の落ち着きに加え、インバウンドが増加していることから、鶏肉需要は堅調に推移している。(食料品工業)
- 国内需要の低下により、工場の稼働率は低下している。(化学工業)
- 海外需要が依然として低迷している影響を受け、在庫調整の局面にあり、工場の稼働率が低い水準にとどまっている。(電子部品・デバイス工業)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率は、緩やかに低下している。新規求人数は、前年を下回っている。

- 医療・福祉、運輸業を中心に人手不足の状況は継続しているものの、小売店でのセルフレジ導入による省人化等で新規求人数は減少している。(公的機関)
- 運転手が慢性的に不足する中、観光需要の戻りに勢いが増していることから、更に人手不足感が強まっている。(運輸業・郵便業)
- 工場稼働率を高い水準で維持するための技術系職員が不足しているほか、総務、会計といった事務系職員も不足している。(化学工業)

- 設備投資 「6年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期
  - 製造業、非製造業ともに増加見込みとなっている。
- 企業収益 「6年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期
  - 製造業、非製造業ともに減益見込みとなっている。
- 住宅建設 「前年を下回っている」
  - 新設住宅着工戸数(6年3-5月)で見ると、前年を下回っている。

#### 【その他の項目】

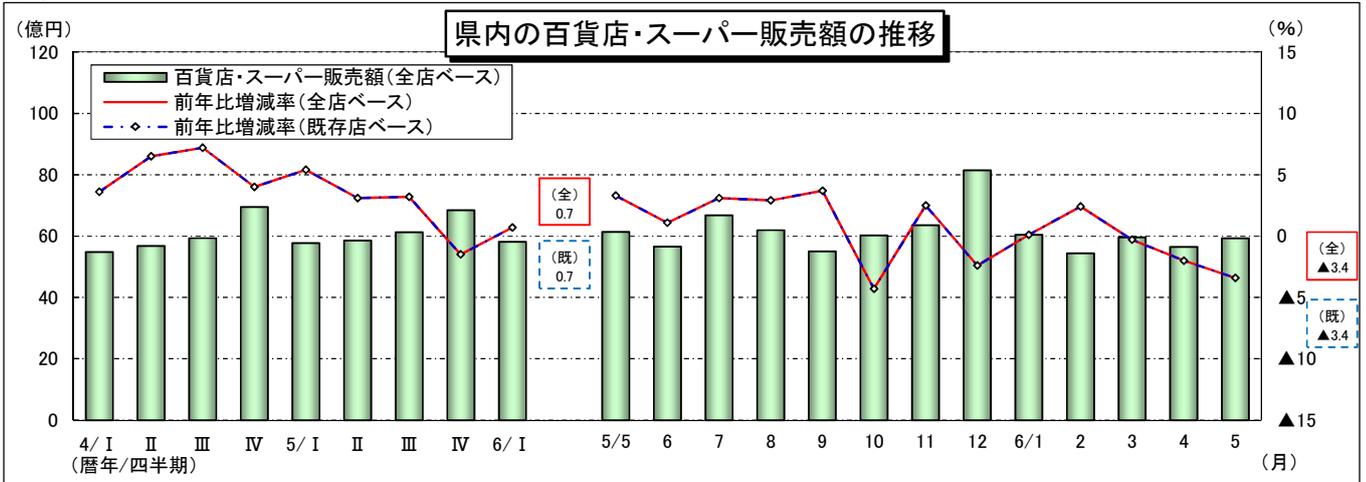
- 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期
  - 6年4-6月期の景況判断BSIを見ると、全産業では「下降」超となっている。なお、先行きについては、「上昇」超で推移する見通しとなっている。
- 公共事業 「前年度を上回っている」
  - 公共工事前払金保証統計の請負金額(6年4-6月累計)で見ると、前年度を上回っている。
- 倒産 「件数、負債総額ともに前年を上回っている」
  - 企業倒産(6年4-6月期)は、件数、負債総額ともに前年を上回っている。

## 参 考 資 料

1. 個人消費 . . . . . 参-1
2. 生産活動 . . . . . 参-4
3. 雇用情勢 . . . . . 参-5
4. 設備投資 . . . . . 参-6
5. 企業収益 . . . . . 参-6
6. 住宅建設 . . . . . 参-7
7. 企業の景況感 . . . . . 参-8
8. 公共事業 . . . . . 参-9
9. 倒産 . . . . . 参-10

# 1. 個人消費

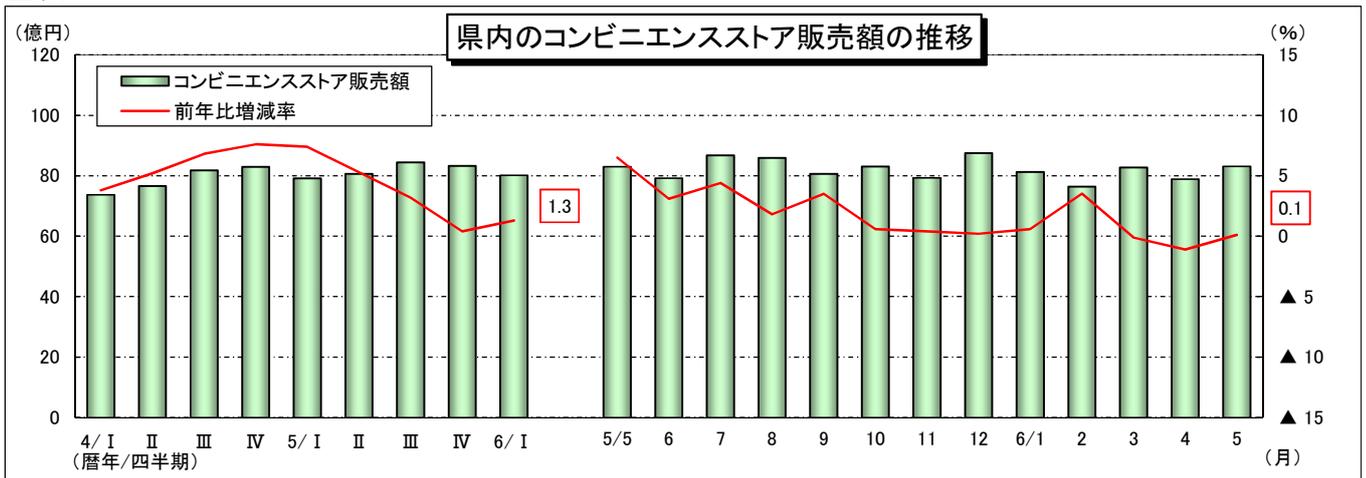
図表1



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：経済産業省]

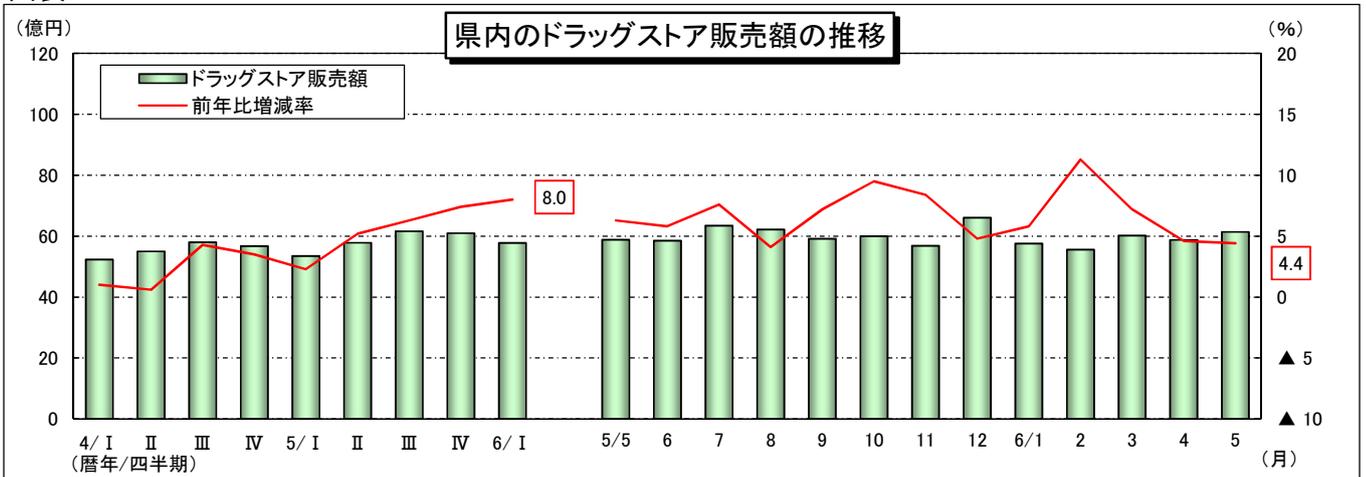
図表2



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：経済産業省]

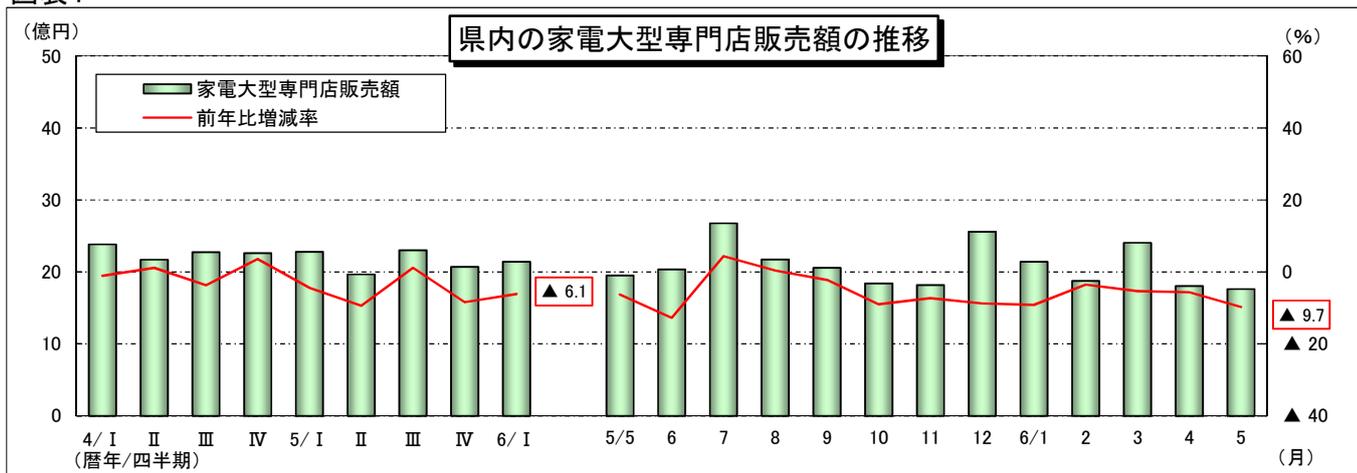
図表3



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：経済産業省]

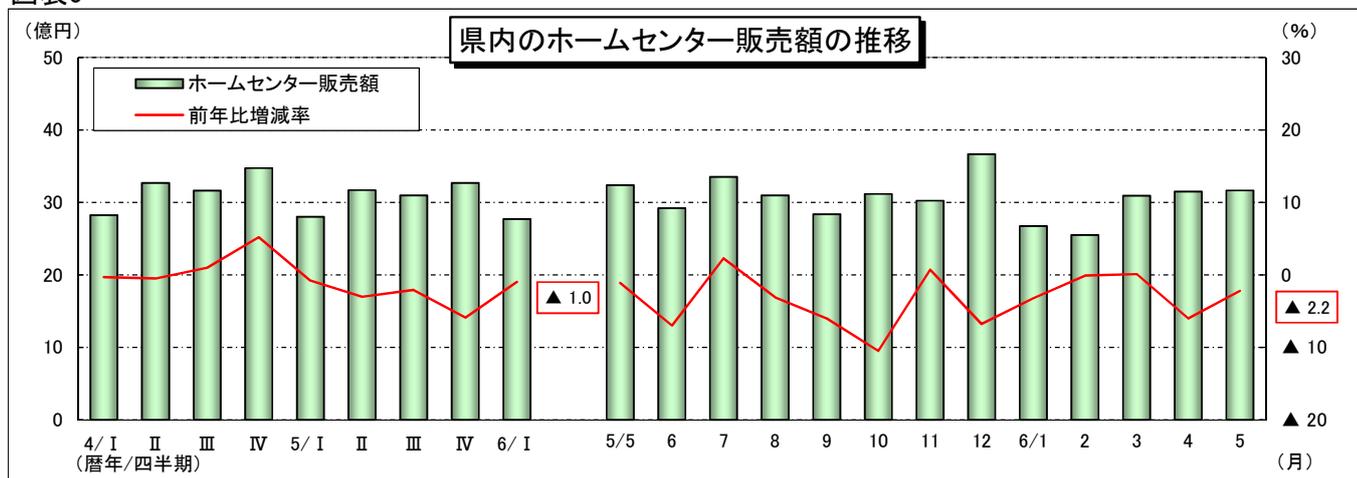
図表4



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：経済産業省]

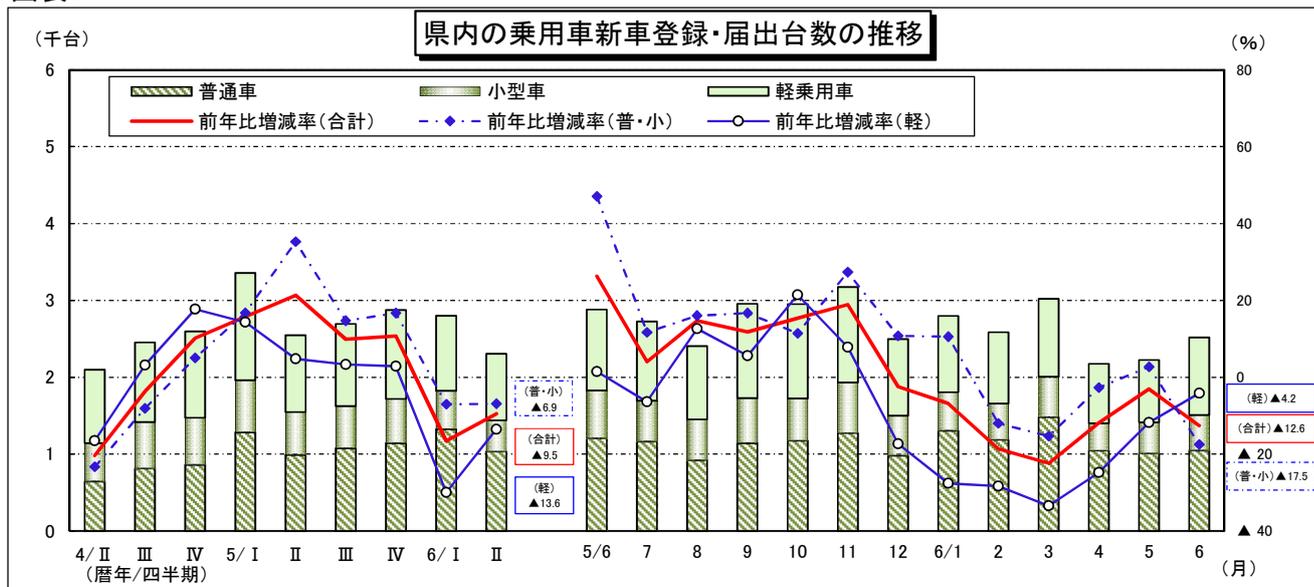
図表5



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：経済産業省]

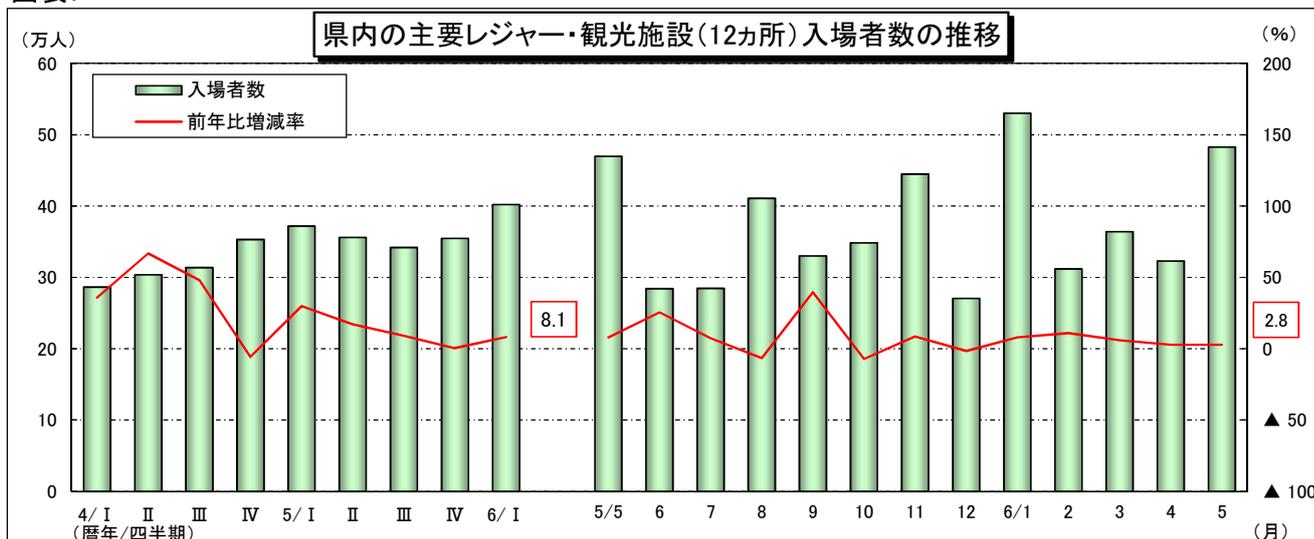
図表6



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会]

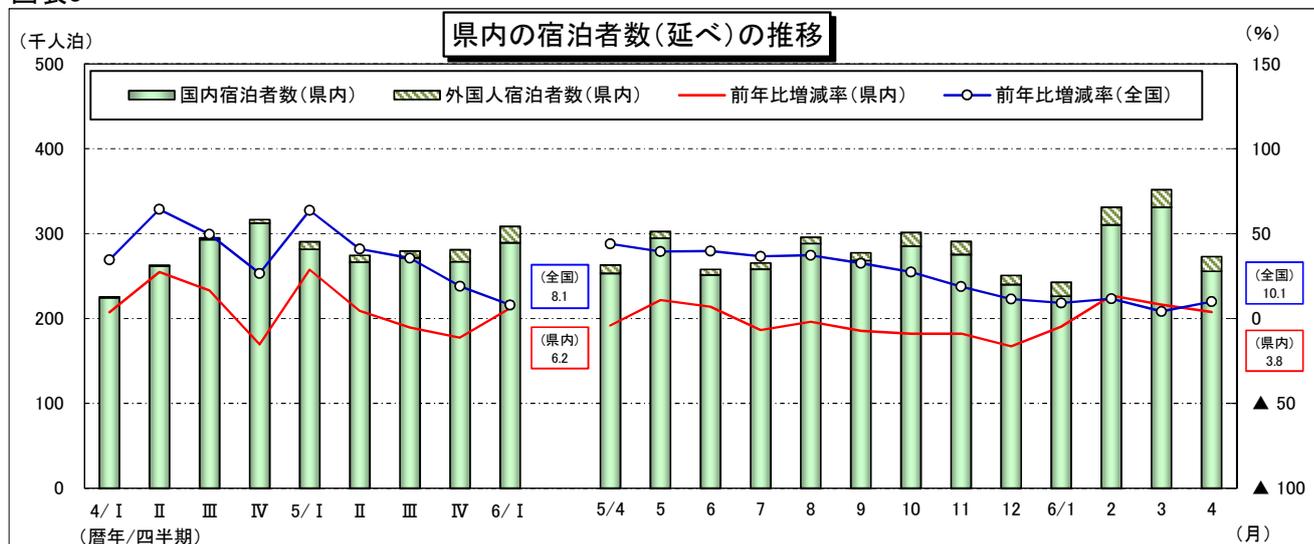
図表7



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：県内主要レジャー・観光施設]

図表8

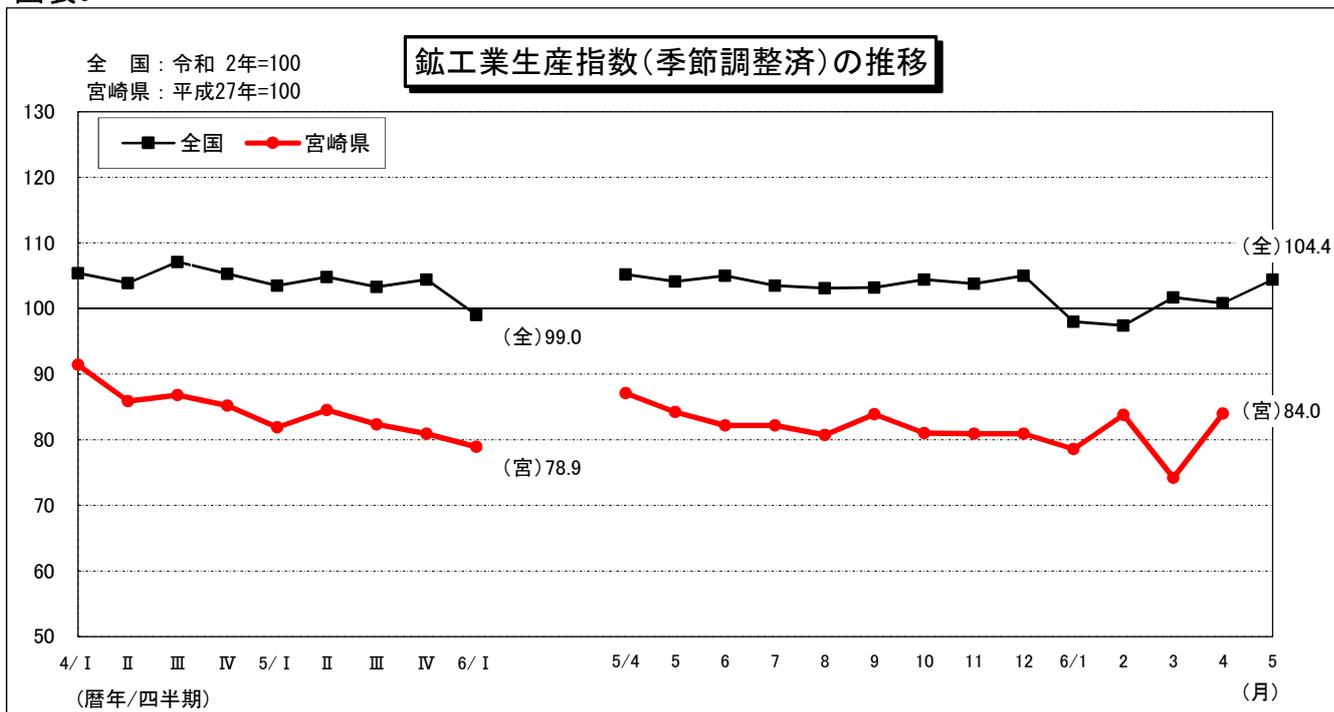


(注) 四半期の棒グラフは月平均。

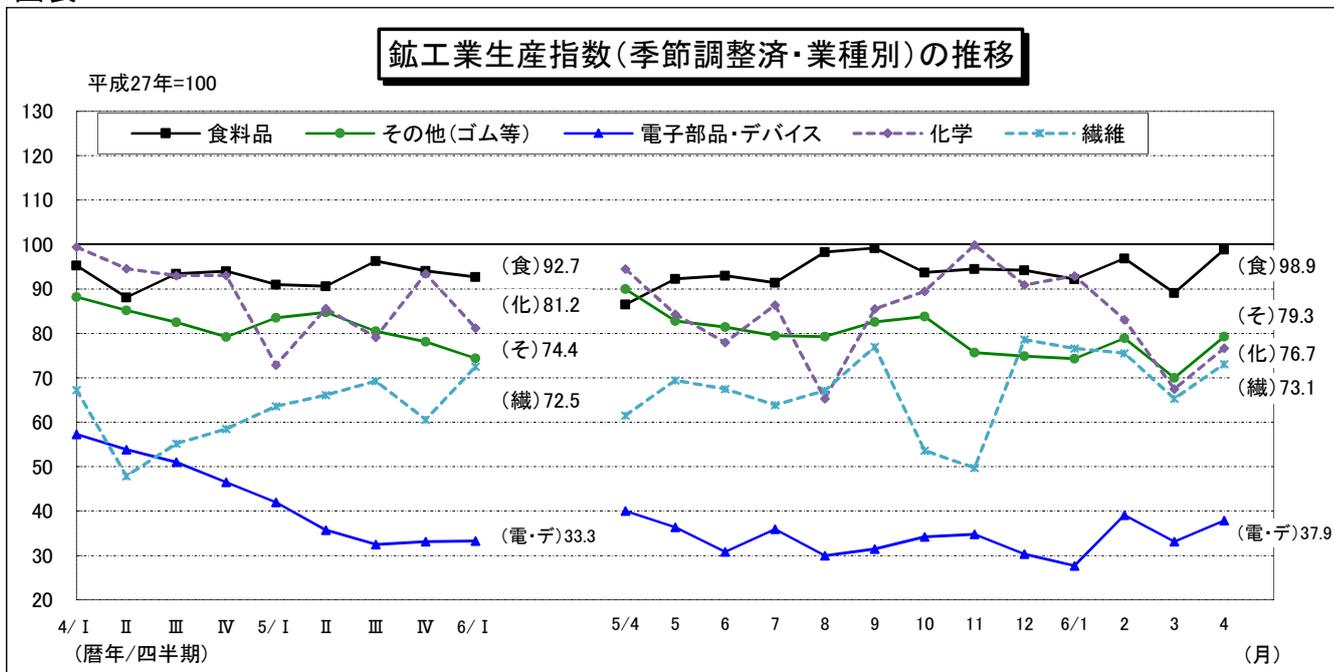
[資料：観光庁]

## 2. 生産活動

図表9

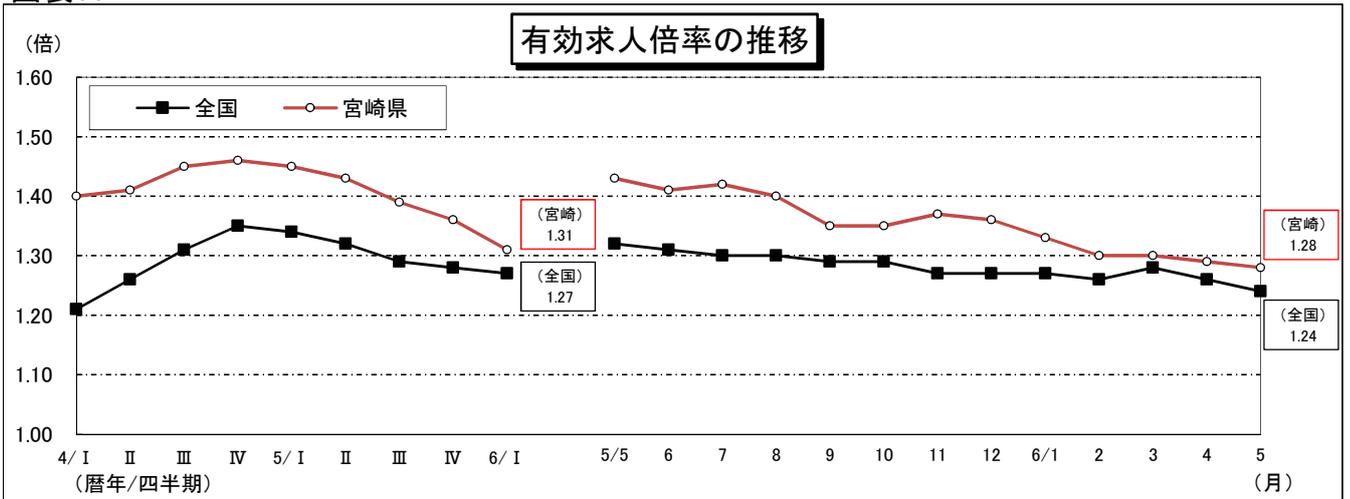


図表10



### 3. 雇用情勢

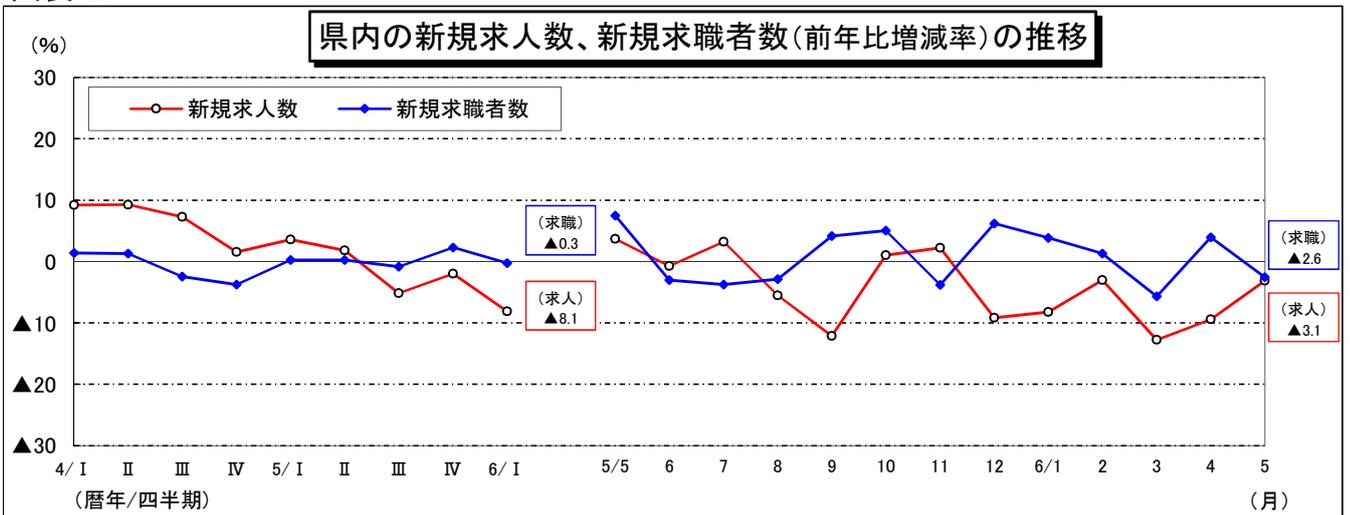
図表11



(注) 季節調整値、パートを含む。

[資料：厚生労働省]

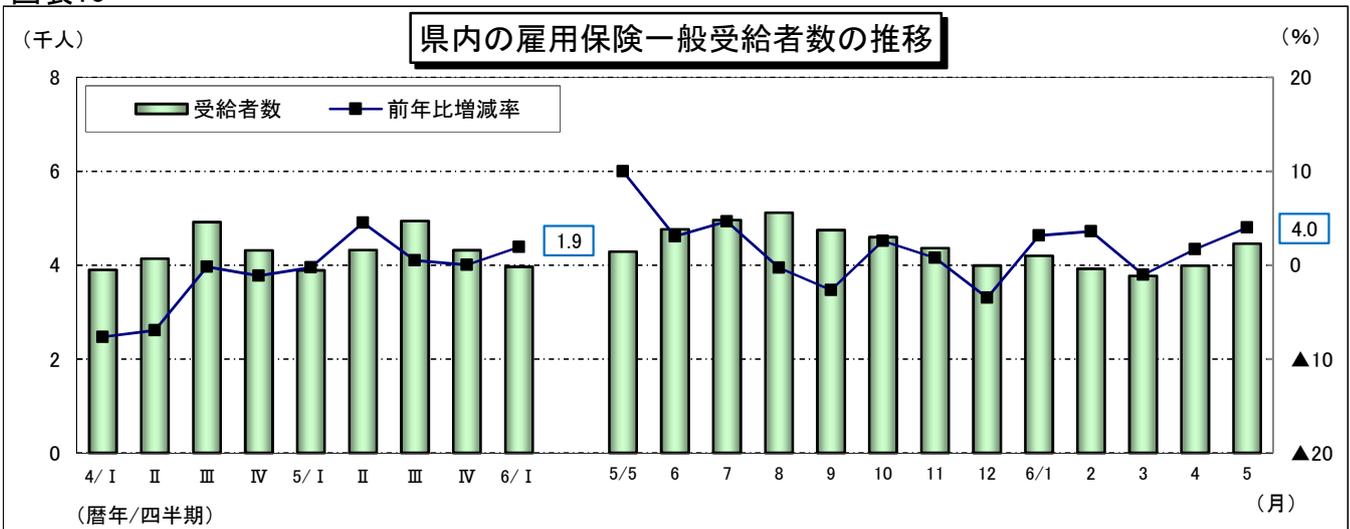
図表12



(注) 原数値、パートを含む。

[資料：厚生労働省]

図表13

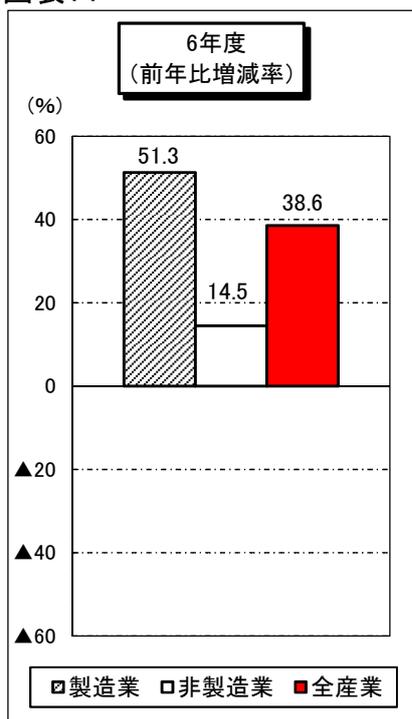


(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：宮崎労働局]

## 4. 設備投資

図表14



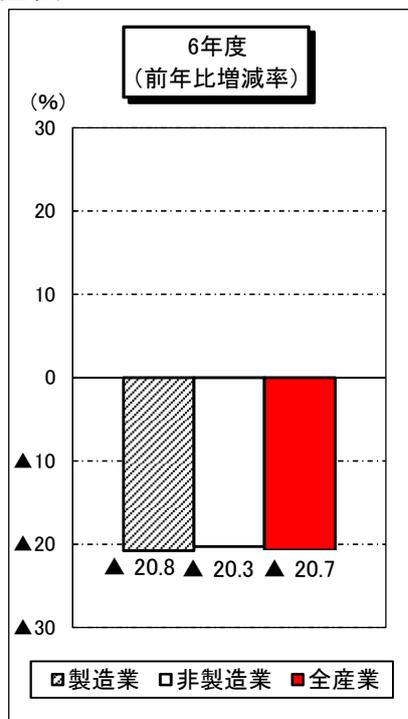
(単位：社、%)

		回答 企業数	6年度 (前年比増減率)
全	産 業	72	38.6
	製 造 業	31	51.3
	非製造業	41	14.5
規	大 企 業	11	16.8
	中堅企業	31	68.3
	中小企業	30	43.9

[資料：宮崎財務事務所 法人企業景気予測調査（6年4-6月期調査）]

## 5. 企業収益

図表15



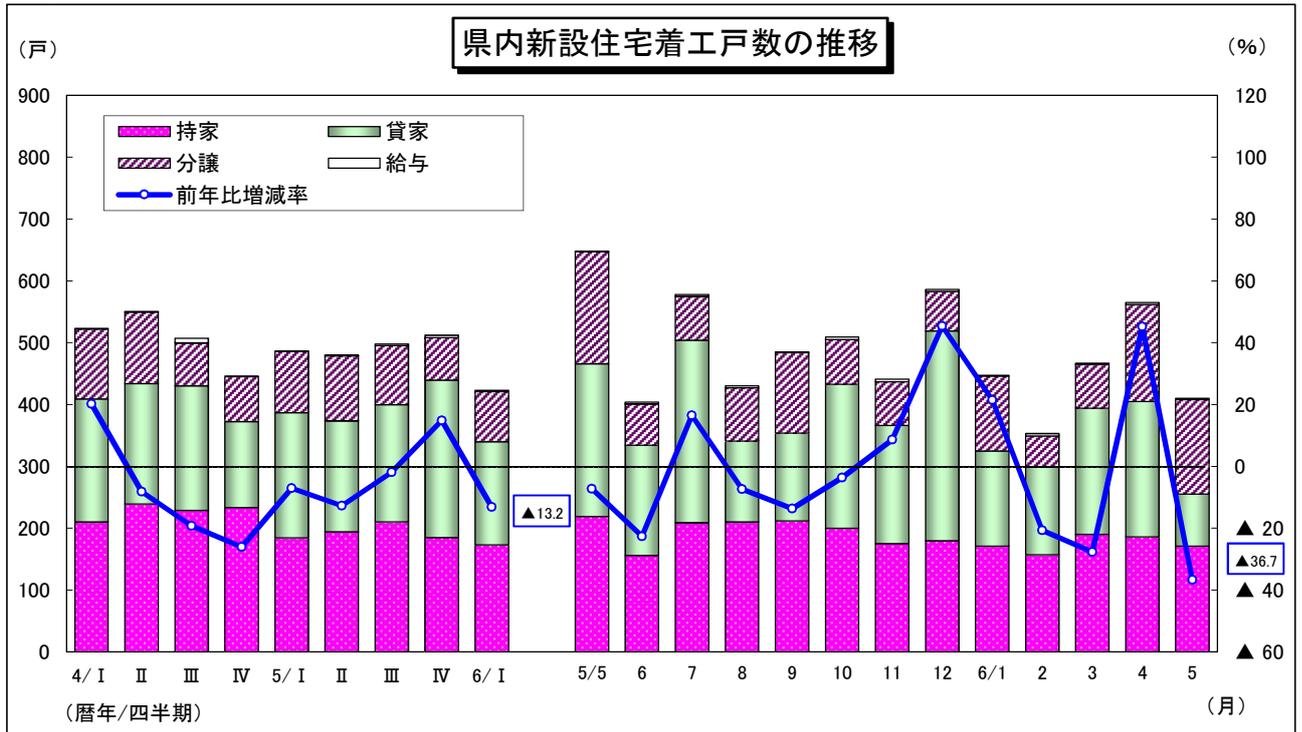
(単位：社、%)

		回答 企業数	6年度 (前年比増減率)
全	産 業	64	▲ 20.7
	製 造 業	30	▲ 20.8
	非製造業	34	▲ 20.3
規	大 企 業	6	▲ 27.8
	中堅企業	29	▲ 7.5
	中小企業	29	▲ 23.0

[資料：宮崎財務事務所 法人企業景気予測調査（6年4-6月期調査）]

## 6. 住宅建設

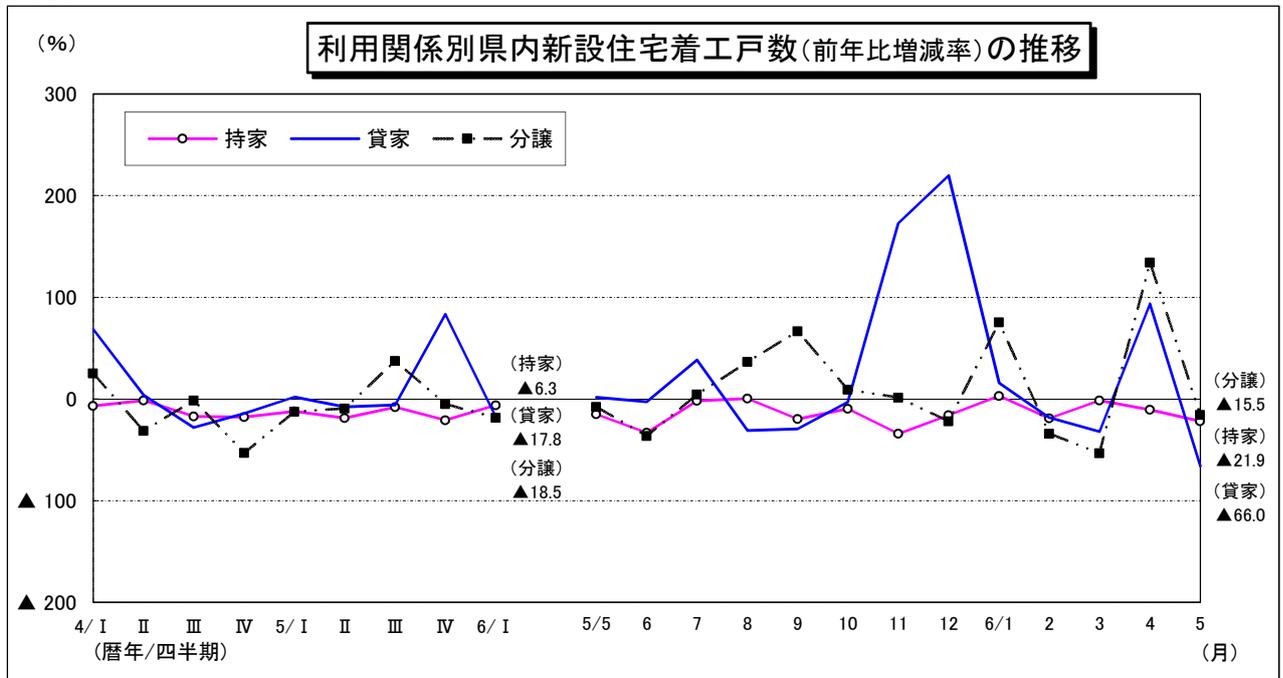
図表16



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料：国土交通省]

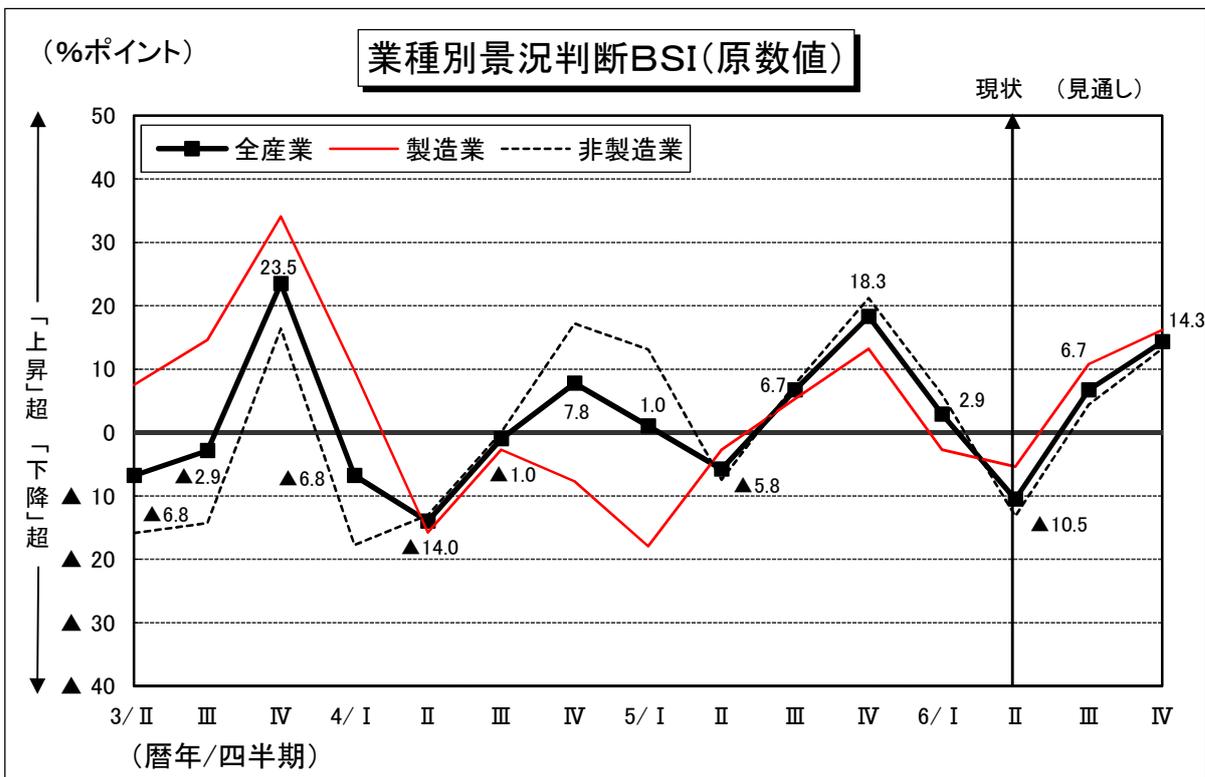
図表17



[資料：国土交通省]

## 7. 企業の景況感

図表18



(注) グラフの数値は全産業のBSIを表記している。

景況判断BSI (前期比「上昇」－「下降」の企業数構成比)

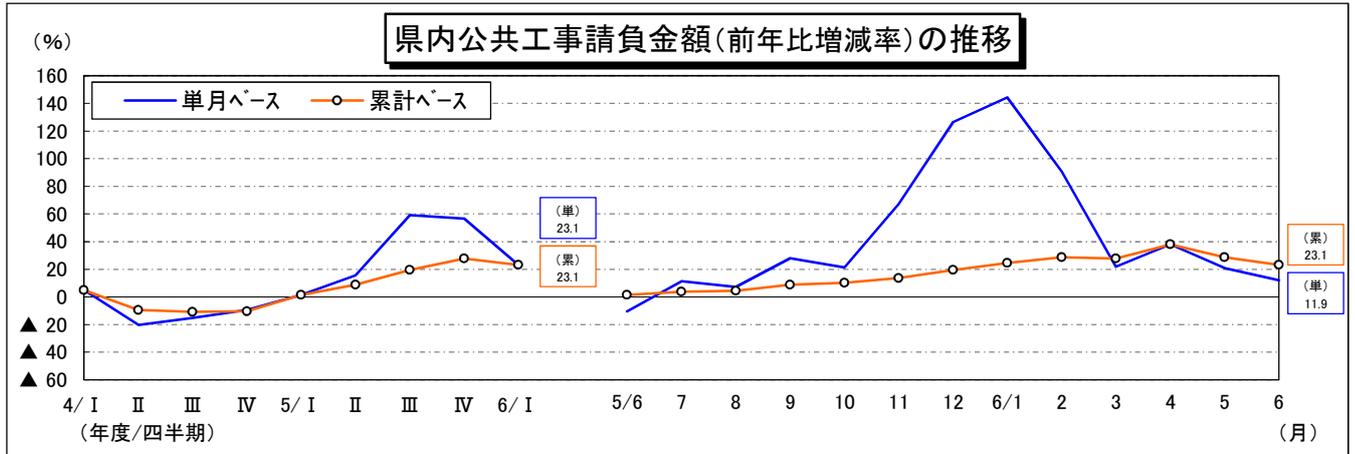
(単位：社、%ポイント)

		回答 企業数	6年1-3月 (前回調査)	6年4-6月 (現状判断)	6年7-9月 (見通しI)	6年10-12月 (見通しII)
全産業	全産業	105	2.9	▲ 10.5	6.7	14.3
	製造業	37	▲ 2.7	▲ 5.4	10.8	16.2
	非製造業	68	6.0	▲ 13.2	4.4	13.2
規模別	大企業	14	▲ 15.4	▲ 7.1	7.1	21.4
	中堅企業	38	▲ 11.1	2.6	21.1	15.8
	中小企業	53	16.4	▲ 20.8	▲ 3.8	11.3

[資料：宮崎財務事務所 法人企業景気予測調査 (6年4-6月期調査)]

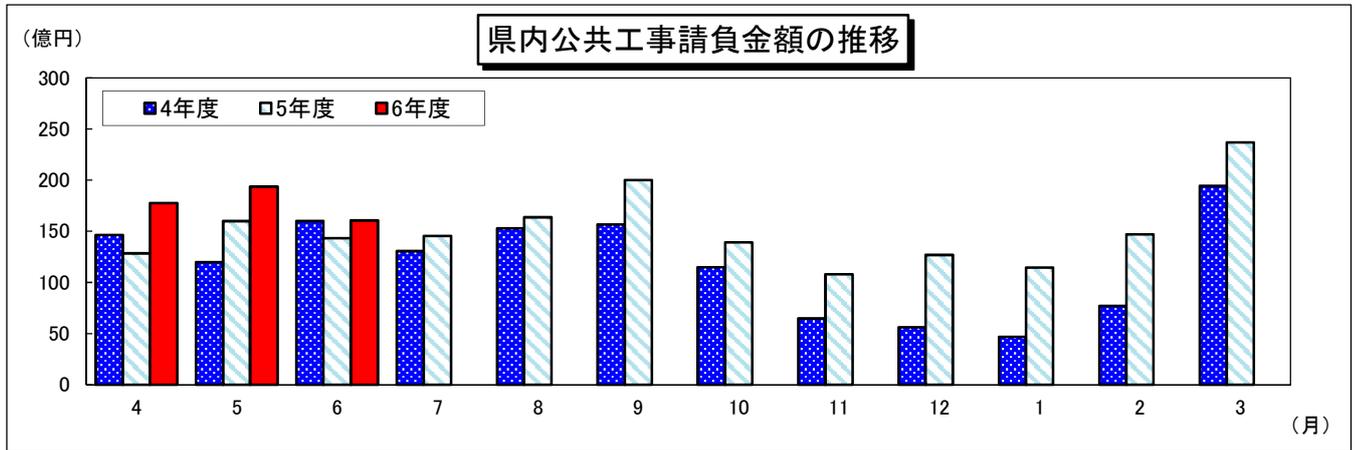
## 8. 公共事業

図表19



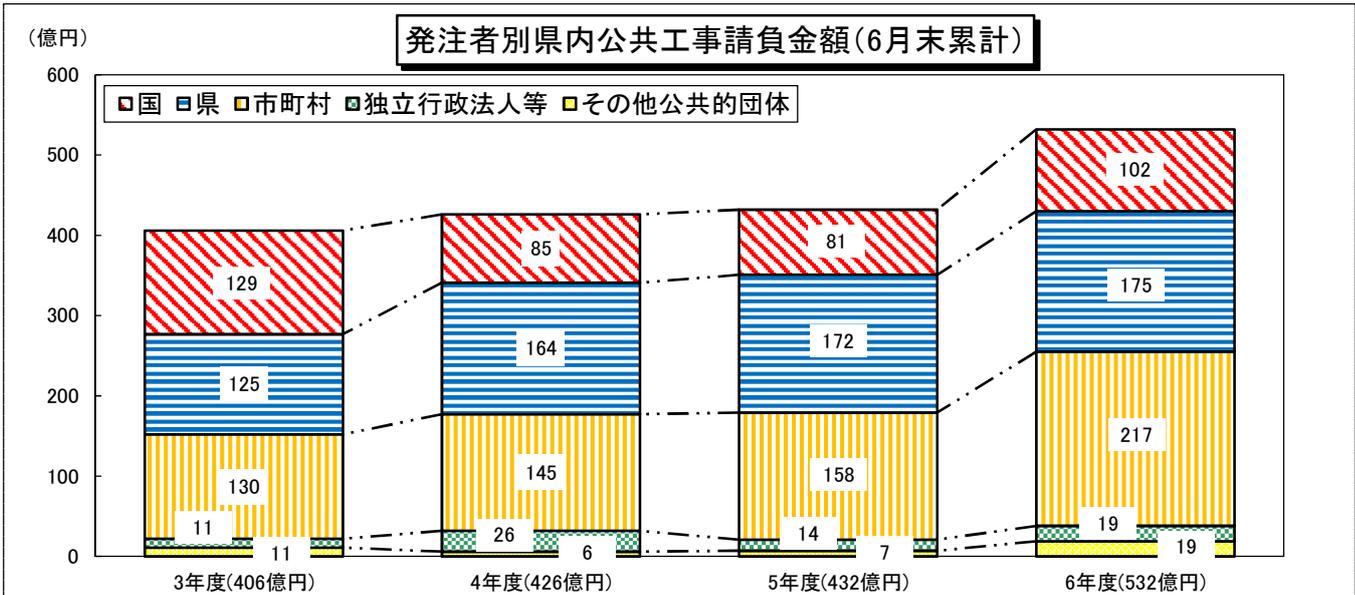
[資料：西日本建設業保証株式会社ほか]

図表20



[資料：西日本建設業保証株式会社ほか]

図表21

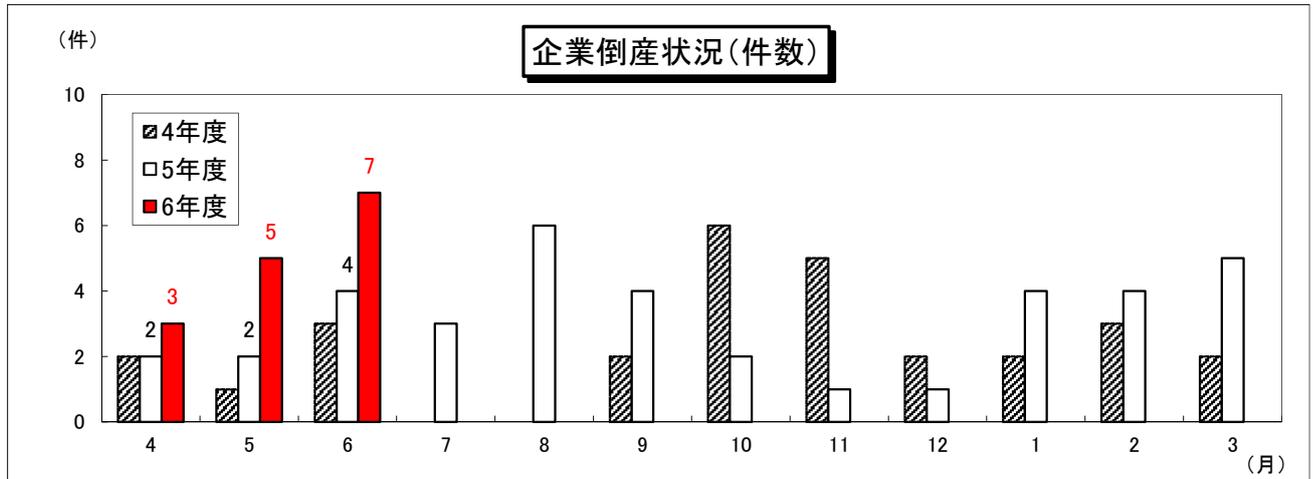


(注) 端数処理(四捨五入)の関係で、合計金額が一致しないことがある。

[資料：西日本建設業保証株式会社ほか]

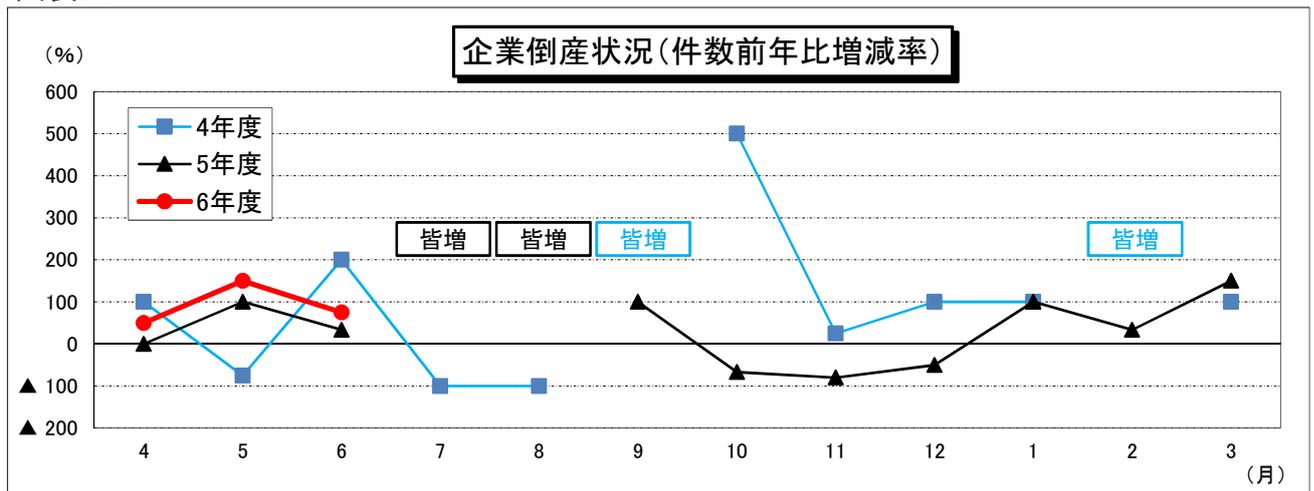
## 9. 倒産

図表22



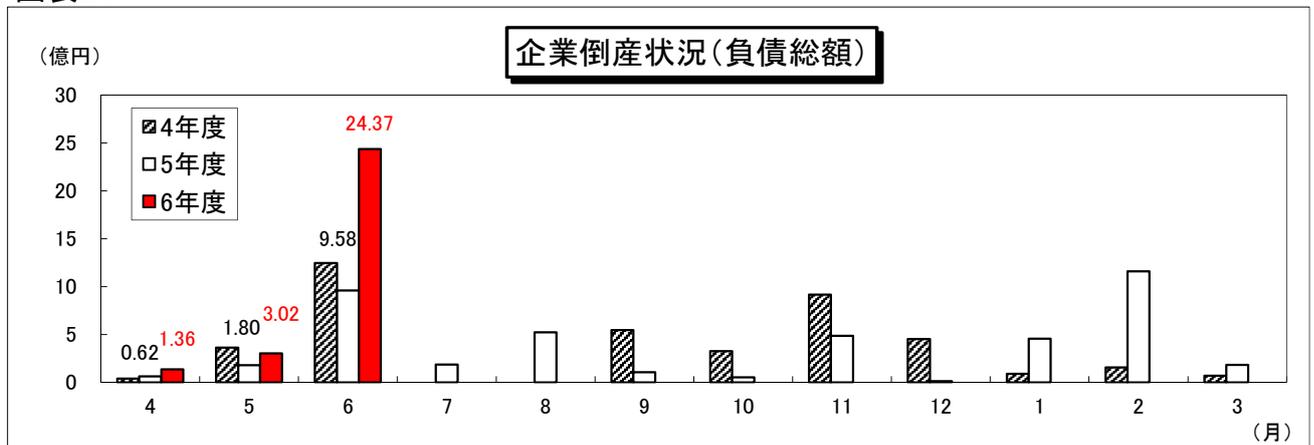
[資料：東京商工リサーチ]

図表23



[資料：東京商工リサーチ]

図表24



[資料：東京商工リサーチ]